

1 社会・治安情勢

昨年11月に実施された大統領選後、汚職、電気料金や公共交通機関の運賃の値上げ等に反対するデモ、道路封鎖が各地で活発化し、同デモや道路封鎖参加者の一部が、警察部隊と衝突する事案も多く発生した。

また、大統領選後1年が経過した今年11月には、首都テグシガルパ市を中心に各地で反政府団体や選挙結果に不服を申し立てる国民により、政府の汚職を訴えるデモが実施された。

現在、選挙結果関連のデモ等は沈静化しているものの、今後、新交通法の制定、選挙法の改定等、一部の国民が反発すると予想される案件も多く、再度、デモが活発化する可能性は否定できない。

また、昨今では、学生活動家グループ（※特にホンジュラス国立自治大学（UNAH）グループ）が他の活動等に便乗してデモを実施し、タイヤ、投石する等暴徒化している。11月には、UNAH前において、同大学学生活動家グループが、付近のハンバーガーショップを襲撃し、火焰瓶で店内の一部を燃焼させた。また、12月にも、同じく同大学前において、通行中の公共バスを襲撃し、バス3台を完全に燃焼させるなどした。

引き続きデモ及び道路封鎖箇所には近づかない、移動に当たっては事前に当館領事関連情報をチェックするなど注意を要する。

2 一般犯罪、凶悪犯罪の傾向

- (1) ホンジュラス国立自治大学暴力研究所（OV-UNAH）によると、上半期（1月から6月まで）の殺人事件発生件数は、1,832件（※未確定値、前年同期比-10.5%）と引き続き減少傾向にある。特にコルテス県、フランシスコモラサン県が大幅に減少した。一方、オランチョ県やコマヤグア県（特にコマヤグア市）が増加している。

また、死因不明の死者数が317件（前年同期比+19.2%）と大幅に増加している。

- (2) 上半期に発生した殺人事件の約70%は銃器を使用したものであり、また、約40%が午後6時頃から午前0時までの夜間に発生している。
- (3) みかじめ料の支払いを拒否したことによる、犯罪組織からの報復と考えられるバス、タクシーなど公共交通機関関係者に対する殺人、銃撃、放火事件も引き続き発生しており、「ラピディート」と呼ばれるマイクロバス（公共バス）や流しのタクシーは使用せず、安全な交通手段（無線タクシー等）での移動を勧めている。
- (4) 銃器を使用した強盗事件も、引き続き首都圏全般で発生しており、徒歩での移動も極力避け、車両での移動を勧めている。
- (5) コカイン、マリファナが大量押収されるケースは続いており、東部密林地域等で薬物精製所、密輸用滑走路も発見されていることから、当国が、他の中南米諸国からの薬物の中継地及び精製拠点として位置付けられている状況は変わっていないと考えられるが、最近では、国内でマリファナ等の栽培も確認、摘発されている。

3 最近の邦人及び邦人以外の被害事案

(1) 邦人の被害事案

特になし。

(2) 邦人以外の被害事件

ア 10月10日午前、北部コルテス県サンペドロスーラ市内において、元金融関係の仕事をしていた男性（63歳）が、白い乗用車に乗車した複数の男らに襲撃され、銃で撃たれ死亡。

イ 10月15日正午、北部コルテス県サンペドロスーラ市内において、男性所

有者の建設中のアパート内で、侵入してきた2人組の男に暴行を受けた後、銃で殺害された。犯人は、被害者の所持品と銃を奪い逃走。

ウ 10月15日、テグシガルパ市及び北部コルテス県サンペドロスーラ市内において、3件の公共バス（ラピディート）襲撃事件が発生。サンペドロスーラ市では運転手男性（22歳）が死亡。みかじめ料を要求している犯罪団体の犯行と見られている。

エ 10月17日午後、北部コルテス県サンペドロスーラ市内において、乗り合いタクシー（コレクティーボ）の男性運転手（18歳）が銃撃を受け死亡。また、乗客の男女も負傷。

オ 10月19日夜間、テグシガルパ市内の飲食店において、5人の武装した犯人グループが侵入、店内の客を銃撃し、8人が死亡、2人が負傷。殺害された被害者のほとんどは公共交通機関の運転手かその集金人。

カ 10月23日午前、テグシガルパ市発サンペドロスーラ市行きの長距離バスが、オートバイに乗車した2人組男性に襲撃され、運転手（64歳）が死亡。

キ 10月25日午後、テグシガルパ市内のレストランにおいて、2人の男が入店後発砲。店内で銃撃戦となり、警備員男性及び犯人グループのうちの1名と見られる男性が死亡。

ク 11月17日（時間帯不明）、テグシガルパ市内の商店に強盗に入った男2人組を制止しようとした警察官が、犯人に銃で撃たれ死亡。

ケ 11月19日深夜、ピザの配達していた男性（21歳）が、何者かに銃で撃たれ死亡。強盗目的と見られている。

コ 11月25日深夜、テグシガルパ発サンペドロスーラ市行きのバスが襲撃され、金品を強取された。また、乗客男性（59歳）が犯人に銃で殺害された。

サ 11月26日午前、テグシガルパ市内において、2人の男性がATMで金を引き落とした直後に5人組の犯人グループに襲撃され、銃で殺害された。被害

者の所持した現金はすべて奪われていた。

シ 11月27日午前、テグシガルパ市内において、公共バス（ラピディート）が男性2人組に襲撃されバスの集金人が負傷。現場には少なくとも8発の銃弾が確認された。

ス 12月3日午前、テグシガルパ市内に所在する最高裁判所正門の直近に所在する飲食店で朝食をとっていた男性弁護士（45歳）が銃殺された。同所は、臨時の大統領府の直近で、警備が強化されている場所でもある。

セ 12月7日午前、テグシガルパ市内において、走行中の車両が襲撃に遭い、銃撃を受けた男性（23歳）1名が死亡。同乗していた男性も負傷。（当館事務所から北西に約1.2キロメートルの距離）

ソ 12月10日午後、テグシガルパ市内において、交通局に所属する男性警官（24歳）が出勤途中に、けん銃使用の強盗事件に遭遇、犯人グループに銃で撃たれ死亡。

タ 12月19日午前、テグシガルパ市内において、ラピディートの車内で乗客を装っていた2人組の男性が、乗客から金品を強取し始めたところ、乗客男性1名が、犯人の1人に発砲、死亡させた。

チ 12月20日午前、テグシガルパ市内において、ラピディートの始発地点で集客中、オートバイに乗った男性2人組に襲撃され、料金集金人の男性（22歳）が死亡、運転手の男性も負傷。

ツ 12月25日午後、テグシガルパ市内において、ラピディート車内で酒に酔った男性が銃を乱射、3歳の男児に命中し死亡。

4 テロ・爆弾事件発生状況

特になし。

5 誘拐・脅迫事案

日本人に対する被害はなし。

6 日本企業の安全対策に対する諸問題

- (1) 一般的にホンジュラス人の対日感情は大変良好であり、日系企業をターゲットとしたテロ等の発生可能性は低い。しかし、日本人企業家を対象とした強盗等は過去に発生しており、一般・凶悪犯罪に対しては十分な注意が必要である。
- (2) 危険度2地域に、商用等で来訪する場合には、事前に十分な情報を収集し、適切な安全対策を行うことが重要である。
- (3) 犯罪被害に遭わないためには、国内の危険地区を十分に把握し、その地区には近づかないことが肝要である。当該地区での業務予定がある場合は、現地治安機関及び日本大使館から十分な治安情報を収集することが重要である。